

口頭⑥

個人に合った漢方 OTC を選択・販売するためのツール作製

田端店
○岩田 奈津子
佐藤 幸 吉川 咲穂利

【目的と背景】

現在、調剤薬局では処方箋調剤だけではなく、地域のかかりつけ薬局としてセルフメディケーションへの対応が求められている。その一つとして一般用医薬品（OTC）の販売も担っている。今回セルフメディケーション推進のために、OTC の販売促進を考えた。販売促進の OTC として、田端店の特徴である漢方薬に焦点をあてることにした。漢方薬の中でも葛根湯は認知度が高く、葛根湯の OTC を取り扱っている店舗もあると思われる。「風邪には葛根湯」というのはよく聞かれるが、どんな風邪にも効果があるわけではない。漢方薬には“証”がある。今回その“証”を薬剤師が判断し、患者一人ひとりの体質や症状に合った漢方薬を選べるツールの完成を目指した。作製したツールは漢方薬に馴染みのない薬剤師でも使いやすいように工夫し、ミキ薬局各店舗で使用できるようにした。最終的にはミキ薬局全体で患者の信頼を得ることを目標とする。

【方法】

今回作製したツールを使い、風邪薬の購入を求める方の症状などに合った漢方薬をお勧めする。また、ツールの使い勝手を検証する。

漢方薬の OTC は以下のものを選定し、販売している。

ツムラ：葛根湯、葛根湯加川きゅう辛夷、柴胡桂枝湯、麻黄湯、麦門冬湯、小青龍湯、桔梗湯
クラシエ：五虎湯

【結果】

9 月中に風邪薬を求められたのは 5 件。そのうちフローチャートを使用したのは 2 件で、漢方薬の販売に繋がったのは 1 件で、もう 1 件は購入に至らなかった。フローチャートを使用しなかった 3 件のうち 2 件は西洋薬を購入、1 件は購入に至っていない。

【考察】

今まで漢方薬の風邪薬は葛根湯しか置いていなかったが、種類を増やしたことで薬剤師から紹介する薬の幅を広げることができた。

フローチャートの使用が少ないのは、各方剤についてある程度の知識があるため、症状のヒアリングの際に漢方薬と西洋薬どちらが適当か判断をつけられるためだと思われる。

今後はフローチャートの使用回数を増やし使用感等を確認、さらに利便性を追求、改善していきたい。